子どもと共に輝やける教育現場であって欲しい！

統合教育を行う地域の学校で自閉症児を担当する若いメル友から、以下のメール。

【「いうことを聞かないのは、子供になめられているから。厳しくしつけを！」とおっしゃる教頭先生、校長先生。それはその子にとって苦痛意外の何物でもないと考え、強く反発する私を含めた担任の先生方。上の方々の考えが全く理解できず、怒りが抑えきれなくなり、立場も忘れて教頭先生に反論してしまいました。】

以下のように返信・アドバイスした。

【子どもを理解していないだけでなく、理解しようとしない管理者。本当に困ったものです。

管理者等は、学校で厳しくしつけられた子どもの先々の姿を知らない。作業所、学童保育等に来た担任の先生の姿を見ると、子どもは固まってしまう話をよく聞く。つまり、怖い体験のみが子どもに残っているだけ。

訪ねてくれた教師に抱きついたり、笑顔を見せられない教育活動って何だっの？と聞きたくなりますよね。

現実問題として、私であれば職員会議で洗いざらい公表しますね。例えば、「校長等にもっと叱れ！と云われたが、子どもの立場ではそれは逆効果。どうしたらいいか解らない。皆さんからアドバイスを！」と。

もちろんあれこれ校長等と同じ意見の教師もいるでしょうが、中には共鳴してくれる教師もいるはず。担任の先生と校長等だけの話では、らちがあきませんものね。教師集団の中で、学校全体の問題として認識してもらうようにどう工夫し策を練るかも必要かと思います。学校内で担任だけが孤立しない工夫を！】

地域での統合教育推進、特別支援教育、発達障害支援策等々、いくら制度が出来ても、この管理者のような資質では、子どもの支援策には程遠い。管理者はいうに及ばず、常に自らを検証する勇気がないと、迷惑するのは、子ども！

先日の新聞報道では、宮城教育大学に、「特別支援教育総合研究センター」が開設されたとか。こうしたセンターが、子どもの指導法だけでなく、担任教師の置かれている学校内の環境を整えることまで考えているのかと問うてみたくなる。また、メル友のような現場教師の生々しい悩みに、果たして適切なアドバイスが出来るのだろうか…。相談につき合っていかないと、若い熱意ある先生方は、学校内で孤立し、潰れていくしかないのか…。

担任の先生方が、子どもと共に輝やける教育現場であって欲しい！

（2004 年 10 月 27 日　記）